

IMPLICATIONS FOR THE ENVIRONMENT, WORLD PEACE, WORLD POVERTY AND THE HUMAN FUTURE

Dr. Steven Greer, M.D.

March 2001

環境，世界平和，世界の貧困と人類の未来に対する意味

スティーブン・グリア博士 医師

2001年3月

([SiriusDisclosure のウェブサイトより](#))

大部分の人々にとり、我々がこの宇宙で孤独なのかそうでないのかは、哲学的な物思いにすぎない - 学問的にはともかく、日常生活においての重要性は何もない。人類以外の知的生命体が現に我々を訪問しつつあるということを示す証拠さえ、地球温暖化、過酷な貧困、戦争の脅威といった世界に住む多くの人々にとっては無関係に思える。人類の長期的未来に対する現実的な課題に直面するとき、UFO 問題、地球外知性体、政府の秘密プロジェクトなどは取るに足らぬ添え物にすぎない。そうではないか？ いや間違っている！ 破滅的なまでに間違っている。

この後の頁で提示される証拠と証言は、以下のことを確実に示している：

- ◆ 我々は進歩した地球外文明の訪問を実際に受けつつあり、これまでも受けてきた。
- ◆ これは米国など多くの国において最も秘密にされ、区画化されてきた計画である。
- ◆ これらのプロジェクトは、アイゼンハワー大統領が 1961 年に警告したように、米国や英国、その他の国々で法の監視と統制を逃れてきた。
- ◆ 情報機関などにより地球外輸送機 (ETV) と呼ばれている地球外起源の進歩した宇宙機が、少なくとも 1940 年代以来、おそらくは 1930 年代頃から、撃墜され、回収され、研究されている。
- ◆ これらの物体の研究により (そしてニコラ・テスラの時代に遡る、人類によるそれに関連した技術革新から)、エネルギーの発生と推進力分野で重要な技術上の大発見が行なわれた。それらの技術は新しい物理学を応用し、化石燃料や電離放射を必要とせずに無限のエネルギーを発生させる。
- ◆ 最高度の極秘プロジェクトが、完全に機能する反重力推進装置と新しいエネルギー発生システムを所有している。それらは、もし公開され平和的に用いられるなら、欠乏も貧困も環境破壊もない、新しい文明を人類にもたらすだろう。

これらの主張を信じない人は、軍と政府関係の多数の証人による証言を注意深く読むべきである。それらの内容は、明確に上記の事実を立証している。これらの申し立てが暗示しているその広大かつ深遠な意味を考えると、その主張を受け入れる人もそうでない人も、すべての人々がこの問題の真実を確かめるために議会公聴会の開催を要求すべきである。まさしく人類の未来が、それにかかっているからだ。

環境に対する意味

人類は、現在は秘密にされているエネルギー発生と反重力推進の装置を実際に所有しており、それらは、現在用いられているエネルギーと輸送システムのあらゆる形態を完全かつ永久に無用のものとすることができる。我々は、公開された議会公聴会で以上のことを立証できる組織内部の事情通と科学者たちを確認している。それらの装置は空間中の電磁気と、いわゆるゼロポイント・エネルギーと呼ばれる状態に作用し、いかなる汚染物質をも発生させずに巨大なエネルギーを生み出す。本質的にこのようなシステムは、遍在する量子真空エネルギー状態、つまり、あらゆるエネルギーと物質が生じる基底エネルギー状態を利用してエネルギーを発生する。すべての物質とエネルギーを支えるのはこの基底エネルギー状態であり、特別な電磁気回路と仕掛けを使えば、我々を取り巻く周囲の空間／時間から巨大なエネルギーを引き出すことが可能なのである。これらはいわゆる永久機関ではないし、熱力学の法則にも反しない。ただ我々の周囲に遍在するエネルギー場に作用して、エネルギーを発生するのである。

このことは、これらのシステムが燃焼させる燃料も、分裂または融合させる原子も必要としないことを意味する。これらのシステムは、発電所も送電線も、また膨大な建設費を要する関連設備も使わずに発電し、インドや中国、アフリカ、ラテンアメリカなどの奥地に電力を供給する。これらのシステムは、必要な場所にありさえすればよい。どこにでも据え付け可能で、必要なエネルギーを生み出す。本質的にこの技術は、我々が直面している大部分の環境問題に対する最終的な解決策となる。

このような発見が環境にもたらす恩恵は数え上げることすら難しいが、幾つかを列挙する：

- ◆ 石油、石炭、ガスはエネルギー源として不要になり、これらの燃料の輸送や使用による空気と水の汚染がなくなる。石油流出、地球温暖化、大気汚染による病気、酸性雨などは 10 年から 20 年以内に解消することができるし、またそうしなければならない。
- ◆ 資源枯渇と化石燃料資源の争奪がもたらす地政学的な緊張は終わるだろう。
- ◆ 空気、水の両方において、産業排出をゼロまたはゼロに近づける技術はすでにある。しかし大量のエネルギーを消費するため、完全に適用するには費用がかかり過ぎると考えられる。さらに、

それらは大量のエネルギーを消費するものであり、今日のエネルギーシステムは世界の空気汚染の大部分を発生させていることから、環境への逆効果となるときがすぐにやってくる。この方程式は、もし産業が大量のフリーエネルギー（燃料不要、他のエネルギー発生装置よりも廉価なもののみ）を利用できるようになれば、劇的に変わる。また、それらのシステムは汚染を発生しない。

◆ エネルギーを大量に消費する再生利用（リサイクル）は、繰り返すが、固形廃棄物を処理するためのエネルギーが無料かつ豊富にあるために、完全実施されるだろう。

◆ エネルギーに依存し環境を汚染している今の農業は、きれいで汚染を発生しないエネルギーを利用するものへと変化するだろう。

◆ 砂漠化の進行は食い止められ、世界の農業は脱塩施設により活性化されるだろう。現在このような施設はエネルギーを大量に消費し、また高い建設費がかかる。しかし、一度これらの汚染を発生しない新エネルギーシステムが使えるようになれば、費用効率のよいものになるだろう。

◆ 航空輸送、トラック輸送、都市間輸送システムは、新しいエネルギーと推進技術によるものにとって代わられるだろう（反重力システムは、地表面上を無音で移動することを可能にする）。汚染は発生せず、エネルギーにかかる費用が無視できることから、経費は大幅に下がるだろう。さらに、都市部での大量輸送には、無音かつ効率的な都市間移動を提供するこれらのシステムが利用できるだろう。

◆ ジェット機、トラック、その他の輸送形態による騒音公害は、これらの無音装置の利用により解消されるだろう。

◆ それぞれの家庭、職場、工場が自らに必要なエネルギー発生装置を持つことにより、公共施設は不要になるだろう。つまり、暴風雨による被害で停電を起こしがちな見苦しい送電線は、過去のものとなるだろう。しばしば破裂や漏洩により土壌や水を汚染する地下のガス管も、すべて不要になるだろう。

◆ 原子力発電所は閉鎖され、その跡地を浄化する技術が利用可能になるだろう。核廃棄物を無害化する秘密の技術は、すでに存在する。

理想郷だろうか？ そうではない。なぜなら、人間社会は常に不完全だからだ。だが、多分今日のそれよりはましだろう。これらの技術は事実である - 私はそれらを見たことがある。反重力は現実であり、フリーエネルギーもまたそうである。これは空想やでっち上げではない。これを不可能だと言う人々を信じてはならない：彼らは、ライト兄弟が空を飛ぶことは決してないと言った人々の知的末裔なのだ。

今日の人類文明は、全世界を滅ぼす能力を持つに至った。我々はもっとうまくやれるし、またそうしなければならない。これらの技術は実在するので、環境と人類の未来について懸念を持つ人なら誰でも、これらの技術が公開され、秘密を解かれ、安全に応用されるように、緊急公聴会の開催を求めべきだ。

社会と世界の貧困に対する意味

上記のことから、現在秘密にされているこれらの技術によれば、人類文明が真に持続可能なものへと到達できることは明らかだ。言うまでもなく、我々は近未来に起きる社会、環境、技術の、まさしく人類史上最大の変革について語っているのである。私はこのような情報公開に伴って否応なしに生じるであろう、全世界に及ぶあらゆる変化を軽視するものではない。半生をかけてこの問題に取り組んできた私は、その変化がどれほどのものか、よく理解している。

人類はこの宇宙で唯一の存在でも最も進化した存在でもない、という事実の判明はさておき、この公開により人類は有史以来最大の危機と好機に直面することになる。もし何もしなければ、我々の文明は環境的、経済的、地政学的、および社会的に崩壊する。10年から20年の間に、化石燃料と石油の需要は供給を遙かに追い越すだろう。そうなると、そこに繰り広げられるのは石油の最後の一滴を求めて相争うマッド・マックスの荒廃した世界である。地政学および社会的な崩壊が、環境の激変よりも早く起きる可能性が高い。

これら新技術の公開は、我々に新しい持続可能な文明を与えるだろう。世界の貧困は、我々の生きているうちに解消するだろう。新しいエネルギーと推進システムの出現により、地球上で欠乏に苦しむ場所はなくなるだろう。砂漠にさえも花が咲くだろう...

貧困地域で農業、輸送、建設、製造、電化のために豊富で無料に近いエネルギーを利用できるようになれば、人間が達成できる物事に限界はなくなる。信じがたいような貧困と飢餓が世界に存在する一方で、この状態を完全に覆し得る秘密の技術を上から押し隠している状況は、馬鹿げており、腹立たしくさえある。では、なぜこれらの技術を解放しないのか？ 社会的、経済的、および地政学的秩序が大きく改変されるというのがその理由である。私がこれまでに会ったどの深部の事情通も、これは人類が経験したことのない大きな変化であることを強調する。問題は、極度の秘密保持の理由が馬鹿げたことではなく、その意味するものがあまりにも深遠で遠大なことにある。もともと、このようなプロジェクトの統制者たちは変化を好まない。そして我々はここで、人類史上最大の経済的、技術的、社会的、および地政学的変化について語っている。それゆえに、我々の文明が忘却に向かって突き進んでいても、現状維持が守られているのだ。

だが、この理屈では我々は産業革命を起こすことはなかったし、ラダイト（*19世紀初頭のイギリスで機械化に反対した熟練労働者たちの組織）は今日までこの世界を支配しただろう。

経済的混乱を最小限にとどめ、新しい社会と経済の現実へと容易に移行するために、国際的努力が必要である。我々にはこれができるし、またしなければならない。一部の石油、エネルギー、および経済部門の特別利益団体は影響を受けなければならないが、同時に温情をもって扱われる必要がある。彼らの権力と帝国が崩壊するのを見たい者はいない。石油とガスの販売に大きく依存している国々は、経済の多角化、安定化、および新しい経済秩序へ移行するための支援を必要とするだろう。

米国、ヨーロッパ、そして日本もまた、新しい地政学的現実に適応する必要があるだろう。現在貧困と人口過剰にあえいでいる国々が技術的にも経済的にも劇的に発展するにつれ、彼らは世界の中で相応の地位を要求するだろうし、また獲得するだろう。そうやって然るべきだ。しかし国際社会は、先進諸国と第三世界の地政学的和解が、発展よりも新興勢力による好戦的で破壊的な振る舞いを引き起こす可能性に対して、防護策をとる必要があるだろう。

特に米国は、その力をもって先導する必要がある。ただし、支配に向かう今の傾向は避けなければならない。指導力の発揮と支配は同じではない。その違いを我々が早く学べば学ぶほど、世界は一層よくなるだろう。支配と覇権を伴わない国際的な指導力というものは可能である。米国は、この問題でまさに求められる指導力を示すつもりなら、両者の違いを認識する必要がある。

これらの技術は、字義どおりにも比喩的にも力を分散するがゆえに、苦難と貧困の中で生活している数十億の人々を、新しい豊かな世界へと導くだろう。そして、経済と技術の発展により教育が盛んになり、出生率は下がるだろう。社会の教育水準が向上して繁栄が進み、技術が進歩し、また女性が社会で男性と対等の役割を担うにつれて出生率が下がり、人口が安定することはよく知られている。これは世界の文明と人類の未来にとりよいことである。

どの村も汚染なしに電化が進み、農業はきれいで無料のエネルギーにより活性化し、輸送費用が下がると、貧困は劇的に世界から消滅するだろう。もし今行動を起こせば、2030年までには今日の我々が知る世界の貧困は事実上消滅できるだろう。我々に必要なのは、これらの変化を受け入れる勇気と、人類を安全に平和裏に新時代へと導く知恵だけである。

世界平和と安全保障に対する意味

数年前、私はこの問題について元上院外交委員会議長のクレイボーン・ペル上院議員と議論していた。彼は、1950年代からずっと連邦議会にいたが、この問題については一度も説明されたことがなかったと明かした。私は、これらの間のプロジェクトの性質上、我々の指導者の大部分はこの問題についてのいかなる決定からも外されてきた、実に恥ずべきことだと書いた。私はこうも言った。“ペル上院議員、あなたが外交委員会の議長だった全期間を通して、あなたは究極の外交問題を扱う機会を奪われていたのですよ...”そして頭上の星々を指さした。彼は言った。“グリア博士、残念だがあなたの言うことが正しいようだ...”

ペル上院議員、ジミー・カーター大統領、その他の国際的指導者など、我々の卓越した外交官と長老たちが、特に、また意図的に、この問題から遠ざけられてきたことは事実である。これは世界平和にとり直接的な脅威である。秘密の真空地帯の中で、人民にも、人民の代表にも、国連にも、他の合法的などの組織にも監督されずに、世界平和に直接的脅威を与える作戦が実行されてきたのだ。

互いに見知らぬ、共謀の機会を持たない、軍の複数の証人たちによって補強されている証言は、米国と他の国々がこれらの ETV（地球外輸送機）に攻撃をしかけ、そのうちの幾つかは撃墜に至らしめたことを明らかにするだろう。私が国連事務総長ブトロス・ガリの夫人に述べたように、もしこれに 10 パーセントの真実でもあるとするなら、これは人類史において世界平和に対する最終的な脅威となる。

そのような作戦行動について直接の知識を持っている、信頼すべき多くの軍と航空宇宙当局者に個人的に面接取材をした結果、私はこのことが実際に行なわれたのだと確信している。なぜか？ これらの未知の輸送機が無許可で我々の領空にいたからであり、我々が彼らの技術を獲得したかったからである。これらの物体から人類が実際に脅威を受けたとは、これまで誰も主張していない。明らかなのは、恒星間航行を当たり前に行なう能力を獲得したいかなる文明も、もしそれが彼らの意図であったなら、我々の文明を瞬時に終焉させることができたということである。いまだに我々が地球の大気を自由に呼吸しているという事実が、これらの ET 文明が敵意を持っていないことを示す十分な証拠である。

我々はまた、いわゆるスターウォーズ（または米国本土ミサイル防衛システム）計画が、実際には ETV が地球に接近、または大気圏に侵入したときにそれらを追跡し、標的にし、破壊する兵器システムの配置展開という、闇のプロジェクトのための口実であったという情報を得ている。他ならぬウェルナー・フォン・ブラウンが死の床で、そのような構想が事実であり、また狂気じみていることを警告した。それに何の効力もないことは明らかである（ウェルナー・フォン・ブラウンの元代弁者であったキャロル・ロジンの証言を見よ）。

まさに、方向を変えなければ、向かっている所で終わりになる、である。

秘密の兵器庫に隠されている兵器 - 熱核兵器よりも遙かに恐ろしい種類の兵器 - をもってしても、生存のための戦争に勝つ可能性はない。それにもかかわらず、密かに人類の名で、我々の未来を危険に陥れる行動がとられてきたのである。全面的な、ありのままの公開のみが、この状況を修正することができる。そのことの緊急性を言葉で伝えることは、私には不可能だ。

10 年間、私は一人の救急医として働き、どんな物でも武器になり得ることを見てきた。英知と平和なよき未来 - 可能なただ一つの未来 - への願望によって導かれなければ、どんな技術も闘争の道具となる。国連にも、米国政府にも、英国政府にも、合法的などの組織にも答えない極秘プロジェ

クトは、人類の名でこのような行動を続けることは許されない。

極度の秘密がもたらす大きな危険性とは、それが自由で開かれた意見の交換に扉を閉ざした、密閉されたシステムをつくるということである。そのような環境では、どれほど重大な過ちも起きる可能性があることは容易に理解できる。たとえば、ここに掲載した証言が示すように、これらの ETV は我々が最初の核兵器を開発し、宇宙に進出し始めてからその出現が頻繁になった。この中の信頼できる軍関係者による多数の証言によれば、これらの物体が ICBM（大陸間弾道ミサイル）の上を舞い、さらにはそれらを無力化した複数の事例があった。

閉鎖的な軍事的視野の中では、これに憤慨し、反撃体制をとり、物体の撃墜を試みることになるかもしれない。実際、これが通常の反応だったのだろう。しかし、これらの地球外文明が次のように言っていたとしたらどうだろうか。“どうか、あなたたちの美しい世界を破壊しないでください - そして次のことを知ってください： 私たちは、あなたたちがこのような狂気と共に宇宙に進出し、他の世界の人々を脅かすことを許しません...” 気遣いとより大きな宇宙的英知さえ示す出来事が、幾たびも侵略行為と解釈されてきたかもしれない。このような誤解と近視眼こそが、戦争を招く元なのである。

これらの訪問者たちに対する我々の認識がどうであれ、暴力的な戦闘によって誤解が解消されることはない。そのような狂気の企ては、人類文明の終焉を企てることに他ならない。

今やペル上院議員のような、我々の賢明な長老と分別のある外交官たちに、これらの重大問題を任せるときである。これを、選ばれてもいない小集団の、勝手に説明のつかない秘密作戦の手に委ねるのは、米国と世界の安全保障にとり史上最悪の脅威である。アイゼンハワーは正しかった。しかし誰も耳を貸さなかった。

これらの訪問者たちに対して、暴力的な戦闘を伴う秘密の行動がとられてきたとする証言に照らし、国際社会一般、とりわけ米国議会と米国大統領は、以下のことを緊急に行なう必要がある：

- ◆ この問題が秘密裏に扱われていることが国家と国際社会の安全保障に及ぼしている危険性を検討評価するための公聴会を開く。
- ◆ 宇宙の軍事化を即時禁止する。特に、いかなる地球外物体に対しても、それを標的にする行為を禁止する。このような行動は是認されるものではなく、人類全体を危険に陥れる。
- ◆ これらの地球外文明との仲立ちをし、意思疎通と平和的關係を促進するための、特別外交団を創設する。
- ◆ 人類と地球外文明の關係を管理し、平和な互惠關係を確保するために、適切な権限を持つ開か

れた国際監視団を創設する。

◆ 進歩したエネルギーと推進システムに関係する新技術の平和的利用を確実に促進することができる、国際的な諸機関を支援する（下記を見よ）。

上記に加えて、あまり目立たない - しかしおそらく同じくらい差し迫った - 世界平和に対する脅威は、この問題が秘密裏に統制されることにより、すでに議論された新しいエネルギーと推進の技術が世界から奪われていることから発生する。

世界の貧困、そして富める国と貧しい国との間の格差の拡大は、世界平和にとり深刻な脅威である。この格差は、これらの技術の公開と平和的応用によって是正されるだろう（上記を見よ）。今後 10 年から 20 年以内に想定される、化石燃料の供給減少を巡る戦争の現実的脅威は、この公開の必要性をさらに高める。貧困の中に生きている 40 億の人々が、車、電気、その他の現代の利器を望んだら、何が起きるだろうか - すべては化石燃料に依存しているのではないか？ 我々が直ちに、今秘密にされているこれらの技術の利用へと移行すべきであることは、思慮深い人々にとって明らかだ - それらは、すでに棚に置かれたままになっている強力な解決法である。

もちろん、多くの部内者が指摘するように、これらの技術は祖父の時代のオールズモビルではない。それらは他と同様に、テロリスト、好戦的な国家、常軌を逸した人間により暴力的に利用され得る技術的進歩である。ここで我々は板挟み状態に陥る。もしこれらの技術がすぐに出現しないとすれば、我々は人類文明と環境の確実な崩壊に直面するだろう。もしそれらが公開されれば、破壊にも使える非常に強力な新技術が、そこに転がっているということになる。

近い将来、人間はどんな新技術でも暴力的に利用するだろう、と考えるのが賢明である。この意味するところは、このような装置を平和のためにのみ利用することを確実にするための - つまり強制力を持った - 国際機関が創設されなければならないということである。今日では、このようなすべての装置を GPS（全地球測位システム）監視に接続する技術が存在する。それにより、故意に手を加えられたり、平和的なエネルギー発生と推進以外の目的に使われたりするいかなる装置も、無能にしたり役立たなくしたりすることができるだろう。これらの技術は、規制され監視されるべきである。国際社会は、それらの平和利用のみを保証できるほどに成熟しなければならない。

他の目的への利用は、地球上のすべての国々により、絶対に阻止されるべきである。

このような協定は次の段階として必要なものである。おそらくいつの日か、人類はそのような統制を必要とせずに平和に生存するようになるだろう。しかし当面のところは、鎖につながれた犬と同様、何らかの強い束縛が当然必要であり、不可欠である。

しかし、このような懸念はこれらの技術の公開をさらに遅らせる論拠にはなり得ない。我々は、そ

これらの安全で平和的な利用を確実にする知識と手段を持っている - だから、もし我々がこれ以上の環境の悪化、世界の貧困、および紛争の深刻化を回避するつもりなら、これらの技術は直ちに応用されなければならない。

つまるところ、我々はどんな技術的または科学的な難題をも凌ぐ、社会的および精神的な重大局面に直面させられることになる。技術的な解決策はある - しかし、我々は共通の利益のためにそれらを実行に移す意志、英知、勇気を持っているだろうか？ この問題を考えれば考えるほど、我々にはただ一つの可能な未来しかないことが明らかだ：平和である。地球の平和と宇宙空間の平和 - 英知を持って実現する普遍的な平和。それ以外はすべて滅亡への道である。

これこそが現代の最大の課題である。我々の精神的、社会的資源は、この課題に立ち向かえるだろうか？ 他ならぬ人類の運命がかかっているのだ。

(訳：廣瀬 保雄)